

ARAI NEWS



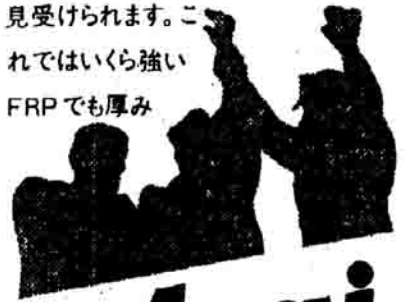
1984年11月25日発行 第100号

「世界最強、アライチーム」と言ってもレーシングチームのことではありませんし、もちろん社内サッカーチームのことでもありません。今月のテーマはArai製品の全数を、しかも2度にも及ぶ帽体の厚みの均一性の検査をする品質管理スタッフのことです。「また固い話か!」と目をそむけずに、ちょっとだけおつきあいください。ことヘルメットのこと、命にかかわる大事な事なのです。

読者の皆様は、いろ

は「万一」の際の安全を確保するものです。その「万一」に備えるための製品にもし、不良品があったならどうなるでしょうか? こと命にかかわるかも知れない製品が、一般的な品質管理システムによって、例えば不良品は1%以下だからO.K.としたら、その1%の製品を使う人はどうなるのでしょうか? 私たちAraiは「安全」を追求する企業です。もちろん100%の安全

市販のものを買集めてみると、外からは見えない厚みのバラつきがかなり見受けられます。これではいくら強いFRPでも厚み



世界最強、Team Arai

いろな工業製品の不良品チェックがどのように行われているかご存知でしょうか。一番一般的なのが「抜き取り検査」として何個かに1個をラインから適当に抜きとり、その不良具合を検査する方法です。その抜き取って検査した数の内、何%に不良品があるか、そのパーセントがある一定以下であればよし、とするのがごく常識的な品質管理システムです。

しかし、ここで考えてみてください。ヘルメット

なんてあり得ません。しかし、私たちの努力によって、その100%に少しでも近づくことすれば、どんな面倒なことでもやらなければならない、と思います。つまり、例え1%の不良品でも、市場に出してはいけないうことです。不良品0%をめざすことが、100%の安全に少しでも近づくことなのです。これが、私たちAraiが、「抜き取り検査」などという方法でなく、帽体の厚みの全数を、しかも2度に渡って、違う部門で検査をする理由です。

現代の日本の工業技術は進歩しました。帽体素材のFRPもそのひとつです。薄くて軽く、強度のある帽体を可能にしてくれました。しかしその厚みのコントロールには難しさが残されています。事実、

の薄いところを打てば簡単に割れてしまいます。でも、買ったばかりのヘルメットをコンクリートにたたきつけてみる訳にはいきませんよね。Araiではそうした製品が世に出ないよう、製造設備も自社設計です。そして、さらに2重の帽体全数検査をパスしたもののだけが店頭に並ぶわけです。私たちAraiのトップのひとり、は、モーターサイクルを愛しています。レースもやりました。(今でも時々、レースに出るノという社員をヒヤヒヤさせます)。だからこそ、ライダーの身になって製品造りができるのです。面倒な2重の帽体全数検査もやるのです。もちろん、この検査チームが世界最強かどうかは解りませんが、これがAraiのポリシーそのものであり、安全を追求する企業の「あたりまえ」のことなのです。

